

<主の手のぬくもり>

マルコ1：35～45

イエス様は早朝からよく祈っておられた。

人々が一日の活動が始める前。静かな時間。

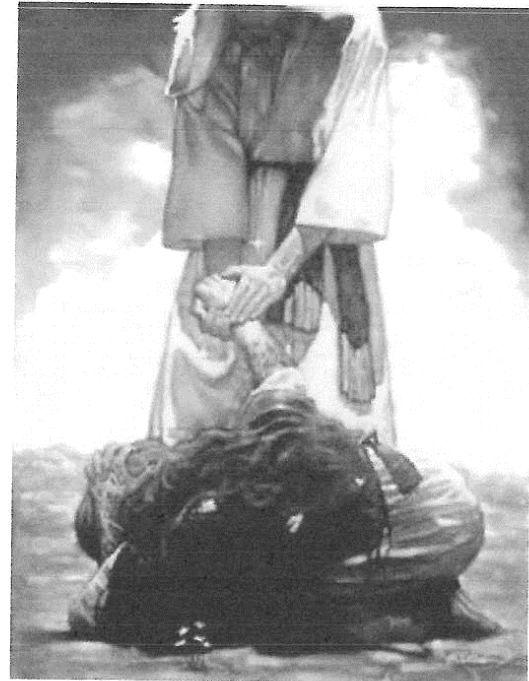
他の人が介入できない、神と私との空間。

父なる神と同じ方を向く・・・自分の人生を併せる。

イエス様は多忙だった。

イエス様の評判はガリラヤ地方全域に広がり、
聞きつけた人々が、イエス様を探して容赦なく、
押し寄せるようにやってきた。

◆息つく暇もない程であったが、父なる神との交りは
欠かさなかった。



【祈り】

- 自分の願いを知ってもらうだけの一方通行ではない。
- 「この世」のものから離れて、神との親しい交わりの時間。神に聴く、双方向。
- 一日24時間。これを一部、神との時間として取り分ける。聖別する。
- 神との交わりの時間を通して新たにされて、再び世の中へと遣わされていく力を神からいただく。

しかし、神の前に静まることを妨げるものがある。

日々の忙しさ / 思い煩い / etc

◆祈りは霊的呼吸。アダムによって死が入った時、霊的呼吸が絶えた。しかし、イエス・キリストの十字架により完全な贖いによって、再び回復した。

イエス様の目的は奇跡を誇示するのではなく、福音を伝えること

イエスは彼らに言われた。「さあ、近くの別の村里へ行こう。そこにも福音を知らせよう。

わたしは、そのために出て来たのだから。」【38節】

【ツァラート】

皮膚病の一種。医学的に病気。宗教的には汚れた者とみなされた。
祭司が症状を見てツァラートかどうかを認定。認定されると汚れた者として、
家族や地域共同体からも排除され、人々には近寄ることが出来なかった。
施しを受けるため人に近づく際にも、『汚れている、汚れている』と叫ばなければ
ならない」（レビ記 13:45）

ツァラートに冒された人が、イエス様に近寄った！

さて、ツァラートに冒された人がみもとにお願いに来て、ひざまずいて言った。
「お心一つで、私をきよくしていただけます。」 【40節】

イエス様の元へ行くのには勇気がいった？！

- ・人前に入るリスク。「近寄るな！」という視線を浴び、時に石を投げられる。
- ・すっかり良くなる確証は何一つない。期待外れに終わるかもしれない。

「お心ひとつで、わたしをきよくしていただけます。」は、イエス様に対する信仰告白。

イエスは深くあわれみ、手を伸ばして、彼にさわって言われた。「わたしの心だ。きよくなれ。」
すると、すぐに、そのツァラートが消えて、その人はきよくなった。【41、42節】

深くあわれみ・・・腸（はらわた）がちぎれる思いにかられて。

「わたしの心だ。きよくなれ。」

イエスキリストは罪を知らない方であるのに、私たちのために罪となられた。
このお方のきよさが転嫁されたように、神の御業が起こされた。